

# 黒川能(蠟燭能)の本場でワークショップ開催 コミュニティに学べ!

文：大貫 美佐子 (文化協力課 課長)

ACCUは民間企業の支援を得て、昨年11月より無形文化遺産優良事例コンテストを開始した。これは、無形文化遺産の保護に関する青少年の積極的な参加によって、消滅あるいは継承者が途絶えかけた伝統芸能の保護と活性化に見事成功した事例を募集し、具体的な取り組みを共有しあうという事業<sup>※1</sup>である。コンテスト審査会は今年2月に開催された(詳細本誌361号)。本ワークショップは、そのフォローアップのひとつとして、入賞した黒川能(蠟燭能)の地元である山形県鶴岡市で6月8日から11日までの4日間開催された。

今回のワークショップは、入賞した6件のコミュニティ(鶴岡市榑引町の蠟燭能実行委員会、種子取祭の竹富島公民館、北秋田市の根子番楽保存会、秩父の屋台囃子保存会、淡路人形浄瑠璃協会、タイの影絵劇ナン・ヤイの保護の取り組み)に加え、佳作として南アフリカのナマ族のダンスのコミュニティからそれぞれ3名を招へいし、さらにゲストコミュニティとしてインドからユニークな継承システムをもつクッティヤタム古典劇継承にかかる実演家3名を招へいした<sup>※2</sup>。専門家としては、アントニオ・アランテス氏(文化人類学者)と河野俊行氏(九州大学大学院法学研究院教授)が参加した。また、ACCUが特別にデザイン・制作したメダルを入賞したコミュニティの代表に授与した。

## 継承者がいない

若者の人口流出による過疎化などによる継承者の減少、市町村合併、観光化と伝統芸能の保護の問題、伝統的なものへの関心の薄れなど様々な問題は、今の日本のみならずアジアにも共通した課題である。ワークショップの前半では、①伝統芸能が継承の危機や衰退に直面していた原因と課題、②それらを乗り越えるために実施したプロジェクトについて若い世代がどのような役割を果たしたのか、③その結果どのような成果があったのかの3点に絞って発表しあうことを目的にした。大変実際的な内容であったことや、各プロジェクトに直接関わる当事者に参加してもらったこともあり、具体的で活発な意見交換が続いた。

例えば、入賞した竹富島の種子取祭は農耕の播種儀礼であることから、農業

を既に営まず観光業が主体になった今、通常の日程どおりに行う必要があるのか疑問の声があがり、奉納芸能の日を土曜、日曜に行うように変更してほしいとの具体的な提案が出された経緯があると報告された。この背景には、石垣島で働く竹富島出身のサラリーマン

の参加があり、平日に祭りがあたる不便を克服して参加したいといった意欲があったという。竹富島は、そのような中で「変えてはいけない」部分がどこまでなのかについて、コミュニティの人々が自ら限界について話し合ってきた。これまでの日程は変えないと決断したとのことだった。

コミュニティは多様であり、それぞれの歴史や状況を背負いつつ伝統芸能を継承している実態が具体的に見えてきた。

## 参加してよかった!

「今回のワークショップに参加できて、本当によかったと思う。自分たちの毎年やってきたことを客観的に確認できた。」ワークショップの最後に、蠟燭能実行委員会委員長の蛸井幸弥さんのおっしゃったこの言葉に深く励まされた。国際協力を通じた無形文化遺産の保護や活性化の役割はまだまだたくさんある。それぞれの事例の共有のみならず、共有によって生まれてくる外部のコミュニティ間の交流を通じて、継承してきたことの価値の再確認から今後の取り組みへの新しい活力、想像力が生まれると感じた。若い世代は内なる活動だけでは閉塞感を



黒川能(蠟燭能)の代表に賞状を授与する佐藤理事長

感じるが多くなり、それを打ち破るエネルギーとの出会いが必要であるとも感じた。

課題としては、こうしたコンテストを実施するにあたり、時間的な余裕がなくACCUの本事業がより多くのコミュニティに届かなかつたことが挙げられる。回を重ねてコンテストを実施し、より多くの事例を集めることが必要であると思う。コミュニティが多様であればあるほど、コンテストの普及には言語の問題が壁になったり、申請をするための人材がコミュニティの外部に存在したり、という実態がある。

最後にこの場をかりてACCUの初の取組みに対しご支援いただいたアクセント株式会社にお礼を申し上げたい。また、開催地としてご協力いただいた鶴岡市長をはじめ同市教育委員会榑引分室の皆様にご心より感謝申し上げます。

※1：コンテストは伝統芸能そのものの評価をするものではなく、コミュニティの取り組みの事例をコンテストという形式を通じ、国際的に参考になる保護の取組みにスポットをあて、奨励し共有していくことを目的としている。

※2：クッティヤタム古典劇は、2001年のユネスコのプログラム「人類の口承及び無形遺産の傑作の宣言」を受けた。